

# 令和元年度 第2回佐久市立近代美術館協議会 議事録

日時 令和2年1月17日(金)午前10時～

場所 市民創錬センター 多目的室1

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 協議事項

### (1) 令和2年度の事業計画について

事務局：(事業計画(案)について説明)

委員：資料に提示されている目標観覧者数について、美術館の見解を教えてください。

事務局：今年度の同時期の観覧者数をもとに算出しているが、「武論尊／史村翔一初めての作品展 First Exhibition」の観覧者数は提示した数字よりも更に多くなることが期待できる。また「ザワメキアート2020」は、障がい者を対象とした県主催の公募展「ザワメキアート」5年間の集大成となる大規模な展覧会なので、今年度の同時期よりも多くの来館者が期待できる。

### (2) 佐久市 日向裕・綾 美術振興基金について

事務局：(寄付及び基金設立の経過と、基金を充当して実施する「日向裕 綾 美術コンクール 佐久市児童生徒美術展」(仮称)について説明)

委員：これまでもコンクール形式だったのか。

事務局：現在は、規定に基づいて各学校から選出された作品をすべて展示している。賞は設定していない。

委員：県などが主催する多くの展覧会がそうであるように、上下の差をつけないのが小中学生の作品展の原則となっている。また、基金から賞品(副賞)を授与するとあるが、賞品の内容や渡し方はどうするのか。

委員：例年秋に開催されている「佐久市児童生徒写生大会」には、賞があるはずだが。

事務局：「佐久市児童生徒写生大会」では、受賞者に賞状と副賞を授与している。また、本コンクールで賞を設定するにあたっては、現行の「佐久市児童生徒美術展」を、より魅力あるものにしていきたいという思いがある。副賞として何が相応しいか検討する。

委員：県高等学校美術展では、図書カードを授与している。

委員：副賞に美術館の年間パスポートを含めるなど、美術館に足を運んでもらうための要素を盛り込むのはどうか。

事務局：会議事項（3）で説明するとおり、来年度から収蔵品展を無料化するため、年間パスポートは採用できない。

委員：学校選出から漏れた作品にも、意欲的なものがあると思うが、そうした作品に応募のチャンスを与える方法はないか。

委員：例えば、学校枠・個人枠のように、応募枠を複数設ける方法が考えられる。

委員：学校に選出を依頼すれば一定の作品数が揃うが、個人単位での応募となると、審査に足る作品数に満たなくなる可能性がある。また、学校では授業内で長い時間をかけて制作するため、完成度の高い作品が揃いやすいというメリットもある。

事務局：学校選出でも、より多くの児童生徒に出品のチャンスが回ってくるよう、配慮してもらいたい旨を要項に明記したい。

委員：県美術教育研究会が協力できる可能性もある。

事務局：どのような形で開催すべきか、今後校長会などで諮っていく。

### （3）開館時間の短縮と収蔵品展の無料化について

事務局：現行の開館時間は9：30～17：00だが、観覧者数が少ない朝夕の開館時間を短縮（10：00～16：30）し、経費を削減する。また、収蔵品展の観覧料を無料にする。収蔵品展だけでない多様な企画展を開催し、観覧者数の増加につなげたい。令和2・3年度をテスト期間と

して実施する。

委員：実際に得られたデータに基づいて開館時間や観覧料徴収の見直しを行うのは、適切であると思う。他方、例えば東京都の美術館では「ナイトミュージアム（夜間開館）」を実施しているところが多く、「働き方改革」下の余暇の過ごし方としても注目されている。通常の開館時間を短縮しながらも、美術館に親しんでもらうためにこのような取り組みを行うのはどうか。

事務局：今後検討する余地がある。寒冷地のため冬季は開館時間の短縮が効果的だが、夏季は魅力ある取り組みを考えたい。既に現在、夕方～夜の演奏会の開催について協議中である。

委員：曜日ごとの傾向を反映させ、開館時間を柔軟に設定するのも効果があるのではないか。

事務局：令和2・3年度はテスト期間につき、開館時間について来館者にアンケートを取り、令和4年度以降の方針を決める。

委員：実際に開館時間を短縮するよりも先に、アンケートを行うべきだったのではないか。

事務局：資料にも示したとおり、現在は観覧者数が減少している状況。実施して効果を検証する。

委員：観覧料収入は、具体的にはどのくらい減るのか。

事務局：収蔵品展3回分で、約60～90万円減少する。

委員：事務局から「無料だからこそできる展覧会を実施していきたい」との説明があったが、良い考えだと思う。収蔵作品と地域の若手作家の作品とのコラボレーションなどで、鑑賞の幅を広げてほしい。

#### （４）その他

委員：エントランスが暗い、入りにくいという問題は前回会議でも挙がっていたが、工事中のバリケードの形状は、美術館である以上、工夫する必要があるのではないか。

委員：国の公共施設に関する指針がだんだん変わってきて、現在はエントランス、事務所などを明るくするところが増えている。展示室に光を効果的に取り入れている美術館もある。今すぐの改善は難しいが、工夫はしてほしい。

事務局：施設の改修は、個別施設計画に基づいて実施することとなる。入口の階段・スロープが公園を利用する子どもたちに人気なので、遊んでいる子どもたちが入って来られる美術館を目指していきたい。

委員：開催中の「佐久平の美術展」で、昨年まで掲示されていた賞札がなくなっていて、見辛い。

事務局：授賞式で指摘があり、現在は掲示されている。

委員：収蔵品展「なつやすみ！アートダンジョン」が面白かったが、通常の展示でもクイズを設置できないか。

事務局：常設されているとそればかりの美術館と思われてしまうので、時期を空けて開催していきたい。

事務局：来館者の「もう一度行ってみたい」という要望を叶えるのが、収蔵品展の無料化である。さらに、親しみやすい展覧会を企画して、鑑賞のハードルを下げていく。

委員：観覧者数が増えると、ミュージアムカフェなども実現できるのではないか。

委員：「佐久平の美術展」審査員の作品展を「松尾敏男展」のような巡回形式で開催できないか。

事務局：パッケージ化されておらず難しい。しかし、毎年高名な先生方に審査いただいているため、顕彰する企画は今後検討したい。

#### 4 閉 会